

『高校クラス担任の基本とQ & A』をご購入いただきありがとうございます。

このデータは、ページの都合で本書に載せきれなかった回答を紹介するためのものです。

本書の回答が自分には合わなかったり、もっと様々な意見や考えが知りたかったりする場合に参考にしてみてください。

- ・事例(悩み)の内容は省略しています。お手元の本をご覧ください。
- ・ダウンロードデータでは、回答者の元の表記をなるべくそのまま載せています。

## 第1章

# 集団づくりの悩み

【事例1】

★自己紹介をなさったことと思います、どんなねらいで取り組ませましたか？担任として生徒に関する情報を得るため？HRで生徒に関しての情報を共有してほしいから？HRのメンバー同士の人間関係を広げるため？…今回のケースでは、3点目のねらいを実願できる自己紹介はいかがでしょうか？体を動かしながら共通項を探すゲームとか…具体的には、誕生日順に並んでみる、長男長女・中間子・末っ子・一人っ子同士で集まるとか、中学で経験した部活同士で集まるとか…など。（ただし、異母兄がいる、途中で部活をやめた嫌な経験がある、という生徒もいるかもしれません、伝えたくない情報は言わなくて良いよ、と先に伝えておきます。）

★お互いに相手のことを知る機会をつくることが大事です。例えば、遠足の班では同じ中学出身者同士にならないように編成します。それ以前に、私がクラス編成に関わる時は、できるだけ、同じ中学校出身者が固まらないように可能な範囲で各クラスに振り分けます。私が交流の機会として実施したものは、アイスブレイキングゲームをLHRに行い、じゃんけんで負けた人が勝った相手の肩に背後から手を置いていく、じゃんけん芋虫ゲームを行いました。これは接触があり、嫌な生徒もいると思いますので、そのときは、肩に置いたふりでもOKです。また、10人くらいの円陣を組ませて、順番に名前と趣味を言っていく名前当てゲームをします。最初に言う人は自己紹介で良いのですが、発言者が順番に隣に移り、最初の方からの他者紹介を含めて、自己紹介をしていきます。例えば、3番目の方だと、「私は〇〇が趣味のAさんの隣の〇〇が趣味のBさんの隣の〇〇が趣味のCです。」という具合で行います。最後の方は全員の紹介をすることになります。緊張するゲームですが、割と早くお互いの名前と趣味を知りますし、もし、名前や趣味を忘れたときは、周りが小声でさやくようにこっそり教えてくれますので、連帯感が生まれます。これを保護者会で行ったこともあり、その時に参加してくれた保護者は、保護者会の常連になっています。

★先生ができるのは前向きを演じることです。生徒も安心して楽しそうだなと思ったら、活発に活動します。人間関係を形成するのは生徒です。生徒も自分たちのペースがありますよ。先生の都合に合わせて主体的に活動するわけではないのです。「もう高校生になったら自分たちで何でもできる」はこれまでの学級の例の一つです。なかなか決まらない苦しみの中から、新たな才能や人間関係が生まれることもあります。推してダメなら待ちましょう。

★生徒は、「全体の前で」意見を求められることに遠慮をしているのかもしれませんが。そのようなときは、グループエンカウンターを活用してグループごとに作業や協働した学びをしたり、ワークシートやアンケートに意見を記入させたりして、少しずつ言葉を発する場面を増やしてはどうでしょうか。教室やこの仲間が、自己開示をしても受け入れてくれる環境なのだということがわかれば、互いの距離感が縮まってくるはずです。

【事例 2】

★担任のかかわり方で、生徒は良くも悪くも変わります。そもそも生徒は楽しいことは大好きです。せっかく同じクラスになった「仲間」なのだから、楽しいことを一緒につくっていきましょう！と呼びかけましょう。どのクラスにも集団から距離を置く生徒はいるものです。行事やクラスレクなどの企画・実行を通して、学校にも楽しいことはある、という経験をして欲しいですね。その過程がそのまま生徒の関係づくり、話し合いの場づくりになるのです。

★第一志望校でないため、元気が出ないのでしょうか。しかし、このままでは、人生さえも棒に振る可能性があります。どこかで気持ちの整理をつけないと、楽しく充実した人生は歩めません。生徒たちと話をする機会を作りましょう。その場で伝えることは、どのような場所に置かれても、生き抜くことが重要であることを伝えます。また「高校生活を楽しもう」「あなたの力で魅力ある高校にしよう」と励ましてください。

★自分なりに努力をしたのに自分の居心地のよい場所に行けず、気持ちを切り替えられない生徒は存在します。「ここで頑張って進学先の大学で希望していた学校の生徒とともに学ぼう」とか「おかれた場所で咲きなさい」などの応援も届きません。解決には自身が行動し、決定することが大切です。せっかく入学したのだから続けてほしいと親も教員も大人はそう思うのですが、別の方向性や選択肢も秘密裏に準備して見守ることも必要では？

★学校生活に否定的な感情を抱いている場合、学校に来る意味を見出せずに日々を無駄にしまう可能性もありますし、校外の誘因で学校に不適應を起こすことも考えられます。この否定的な感情を和らげるためには、この学校に楽しいと思える居場所と活躍できる場面を作ってあげることでしょう。まずは、担任が生徒のことを一番理解していることを示し、この生徒の得意なことから活躍できる場面を探してあげてはどうでしょうか。

【事例 3】

★攻撃的な女子生徒、見ていてイライラしてしまいますよね。きっとこの生徒は、今まで周囲の人との関係を「強さの序列」で経験してきたのでしょうか。もしかしたら、自分より強気な友人にいじめられた経験があるのかもしれませんが。ですから、この生徒に対しては「戦う姿勢」を見せてはいけないと思います。まずは面談で、「いつも強気だけど、疲れたりしないの？」とフラットな形で話を聞いてみてください。道が拓けると思います。

★軽度な発達障害が疑われますね。担任としては、まず、発達障害の基礎的知識について学んで、対処法を知ることが重要です。そのうえで、周囲の生徒たちと話し合う場面を持ちます。正式な話し合いの場でなくて良いです。ほかの生徒の本音を聞き、今後の指導方針を固めます。担任一人が頑張ってもなかなか上手くいきません。生徒に助けてもらいながら、クラスの雰囲気を変えていくことが重要です。時間がかかりますが、焦らず進めましょう。

★まずは、独りで抱えないようにしてください。学年団や生活指導部（保健部）、管理職とも共有し考えましょう。三人寄れば文殊の知恵ともいいます。カウンセラーのような専門家に助言を求めます。どのようなときに困った行動が表れて、どのように対処すると落ち着きが見られるのか情報収集が必要です。周囲の生徒が嫌な思いをせぬよう他者の発言中は口を閉じて最後まで聞くなどのルールを自分で決めさせてみてはいかがでしょうか？

★入学したばかりの時期や新学期の直後は、生徒は友だちを作りそびれまいと、必死な様子が見られますよね。周りから暗い人だと思われたくないとか、弱い人だと思われたくないとか、「スクール・カースト」の上にいる生徒もいて、クラスの雰囲気が安定しません。その雰囲気は、生徒自身が感じ取り、しだいに友だち関係が整理されていくので、心配する必要はないと思います。ただ今回のように、他の生徒を攻撃したり、あまりにも誇示がすぎたりするときは、担任が注意しましょう。こういった生徒が注意されることで、他の生徒にとって教室が安心した場になるからです。

【事例 4】

★まだ2週間ですから、焦って何か手を打つべき状況ではないと考えます。下手に手を出すと、かえってその後の関係を形成しにくくなることもありますので、ゆったり構えて様子を見るようにしましょう。今後、行事等を通して状況が変わらず心配な場合は、クラス全員との個人面談を早めに実施し、そこで本人に、「クラスだと誰とよく話す？」とさりげなく尋ねてみましょう。深刻な状況かどうかはその返答から判断できるはずです。

★このまま固定化は避けたい状況ですね。でもまだ、3週間目に入ったところ。私はよく言われる「習慣化には3週間必要」説を使っています。例えば、人間関係が固定化する前に「お試し期間」を設定します！と宣言し、わざと今のグループを解体して昼休みを過ごすように指示をする、といった具合です。遠足や修学旅行の班決めにつながるなど、理由は何でもよいと思います。学校で楽しく過ごす場づくりであると、プラスのメッセージを送りましょう。

★一人で食べていた生徒と面談をして、理由を確認した上で対策を考えます。高校生が昼食を一人で食べていること自体、絶対に好ましいことではないと言い切れません。たまたま一人で食べていたのか、他に理由があるのか、生徒自身に聞きます。仲間外れにされているなら、担任として解決のために行動しますが、深い意味がなければ、ホームルーム活動の中で、グループ作りなどを経験させながら少しずつ輪に入れるようすれば良いでしょう。

★「友だち関係にまで、わざわざ担任が気を配らなければならないなんておかしい」と思う人もいるかもしれませんね。生徒たちは、お互いに空気を読み合って、一人にならないように、悪目立ちしないように、周囲から浮かないようにしているからこそ、自分たちだけではどうにもならないこともあります。そのようなときは、昼食の時間に、教室にさりげなく行ったり、場合によっては一緒に昼食をとったりしてはどうでしょうか。生徒たちも戸惑うかもしれませんが、あなたが何かを注意するとか、かしこまったはなしをするとかではなく、気軽に話し相手になってみると、そこに新しい輪ができるかもしれませんよ。

【事例 5】

★中学と高校が違うことはわかっているけど、不満を口にしてしまう幼さのある生徒、いますよね、どの学校にも。実際、担任と性の合わない生徒は少なからずいるもので、「むかつく」感情を理屈で抑えるのは難しいと思います。思い切ってセカンドオピニオン、「他の先生の考えも聞いてみたら？」と勧めてみましょう。事前に事情を説明しておけば、協力してくれるはずです。一人ではなく、複数で、担任団で指導していければよいのではないのでしょうか。

★生徒の不満は、甘えたいけれど許してもらえない不満のように思います。また、中学時代が懐かしいのかもしれませんが。高校を卒業すれば、多くは、わがままが許されない世界に飛び出すわけです。優しく接して、その生徒が進路先で失敗することを考えれば、中学生で許されることが、高校では許されない場合があることを自覚させていくのは大人への一歩として大事です。確かに先生にも個性があるので、厳しい先生がいれば、優しく諭す先生もいます。中学校の先生の自慢を生徒が我を通すために利用しているのであれば、場合によっては、生徒が尊敬している中学校の先生と連絡を取り、情報交換をして対応する必要があるかもしれません。もしかすると、生徒が持つ問題点を見つけるヒントがあるかもしれません。生徒には常々「厳しい話をする先生ほど皆さんのことを考えています。なぜなら、皆さんに嫌われないという先生は一人もいません。皆さんに良くなってほしいからです。」と、伝えることが大事です。そのおもしろい生徒に伝わるように厳しい中にも、愛情があるコミュニケーションを日頃からとってください。場合によっては、カウンセラーを紹介するのも手です。

★一生懸命頑張っているあなたにとっては傷つくことでもあり、何度伝えても変容がなく、疲弊してしまっていることでしょう。「木を見て森を見ず」という言葉もあります。一部にこだわるあまり全体を見失う時などに使われます。生徒の中には、厳しくて嫌いな先生だったけれど平等だったことを評価する生徒もいます。企業のお客さま相談センターのように不満を解消することに腐心するより、ゆらぎに指導方針を伝えていくことが大切です。

★中学校の担任の先生を尊敬すること自体は悪いことではないのですが、今の状態が続くと、本人の高校生活にマイナスですよ。この場合だけでなく、1学期の最初の2～3か月くらいは、「以前との比較」がなされることが多いです。教科担当や部活動の顧問も「前はよかったのに」という比較の中で、今の自分の生活の不安をすり替えようとします。このような場合、無理に生徒に近づこうとしても、もっと避けられてしまいます。担任が生徒の機嫌を取る必要はないですが、この生徒の話を聴いてみましょう。それでも嫌がられる場合は、学年団の先生にアプローチをしてもらうのはいかがでしょうか。

【事例 6】

★遅刻指導は全体に関わることで、授業でつぶし反抗するのは特定の生徒に関わることです。朝の SHR の途中で入ってくるのは遅刻ですね。電車の遅れは遅延情報があれば、指定された時間分のみは遅延として処理します…というように、遅刻指導は学年で共通のルールを作り、毅然とした態度で、学年全体で取り組みましょう。年度の途中で取り組みを始める時は、始めるに至った経緯などを周知するための学年集会を開いて、翌日から実施するのも良いかもしれません。

★授業で突っ伏していたり、反抗的な態度を取るのはその生徒に理由があるのでしょう。面談をしてじっくり話を聞いてみましょう。家でのイライラをぶつけているだけかもしれませんし、気の合う友人と HR が変わって寂しいのかもしれません。遅刻の原因も見えてくるかもしれません。まずは、生徒理解です。

★そのような生徒がいる場合は、最初は生徒本人に注意をしますが、続けば家庭に連絡し、生徒を朝早く起こして、家を早めに出すことに協力してもらいます。また、授業中に寝る生徒の多くは、昼夜逆転するなど、生活習慣が乱れている可能性があります。継続して遅刻する場合は、早めの三者面談を開き、生活のリズムを整える作戦を練ると良いでしょう。また、遅刻に関する学年ルールを作って、月に 3 回遅刻をしたら、15 分早く登校させるなど、学年の担任と連携して指導するのも効果的だと思います。遅刻の原因が、怠惰以外の場合もあるので、生徒ともよく相談をするべきです。先生によって反抗的な態度をとった情報は記録を残した方がよいでしょう。社会人になれば、減給や始末書を書くことになる行動ですので、その辺りも含めて指導すべきです。忘れていけないことは、遅刻の原因を探り解決に導くことです。

★朝の SHR は「ゼロ時間目の授業」です。とても大切な時間であることを生徒に伝えます。教科の授業ではありませんが、一日のスタートをきるために必要な時間であることを理解してもらいます。そうすれば、1 時間目の授業に集中できます。興味のない授業であっても、きちんと参加する姿勢が重要であることを伝えます。時間がかかるとは思いますが、担任と生徒との根競べです。頑張ってください。

★遅刻をしてきた生徒に対して、普段からどのような話をされていますか？クラスの雰囲気に対応して遅れてくるのであれば、学級自体が「遅れても仕方がない」ことを認めていることになります。遅刻しなかったのは、周りが遅刻しなかったからたまたま遅刻しにくかっただけかもしれません。遅刻しないように過ごすためにはどうするのか？を考えさせ改善し原因を取り除く必要があります。家庭生活の困難が隠れている場合もあります。

【事例 7】

★自分よりも、その学校での在籍期間が長い生徒を担当するのは、本当にやりにくいものです。しかし、生徒が教師を試すのは、先生に興味がある証拠です。1 学年を担当しても、教科担任であっても同様に試されます。そのたびにご自身の怒りにのみ込まれないように、アンガーマネジメントを学びましょう。その学校の方針や慣例についての情報収集も大切ですが、先生ご自身が判断の基準を持つことも必要です。試験中の掃除、無しにしていいいのは「きまり」ではなさそうですね。そうであるからといって、先生以外のHRの全てで掃除をしていますか？机は下げて掃除をしますか？同じようであってもそれぞれです。それは世の中に出れば当たり前のことかもしれません。何をさせるにも、担任としての考えを説明して取り組ませてはいかがでしょう。ちなみに私は、試験中掃除はしませんが、消しゴムのかすは集めて教室四隅のビニールに捨てさせます。いろいろです。

★若手や「来たばっか」の教師をからかうような生徒はよくいます。指導力のなさを見透かされたようで、情けなく、悔しく思うものです。ですが、まだ異動してきて日が浅く、生徒との間に信頼関係が築けていないのではないのでしょうか。まさに生徒に試されているのです。ここはぐっと気持ちをおさえ、「そんな決まりはないみたいだね」と平然とやるべきことをやらせましょう。別の機会に担任権限で掃除免除の方が効果的かもしれませんよ。

★生徒の発言は、勤務校にいる他の先生方に確認すれば、すぐに嘘だとわかる話です。担任に甘えて言っている可能性があります。生徒には、「掃除なしの申し出は、他の先生に確認したところ、そのような決まりがないと明言された。」と、伝えればいいと思います。生徒がなぜ、嘘をついたのかは、個別に呼び出して、お話を聞いてみるとよいと思います。当然、嘘をつくことは、社会的に信頼を失っていくわけで、失った信頼を取り戻すには、かなりの時間と労力を要することになります。生徒には、その辺りを含めて、今後、同様なことがあれば、2度と発言に対して、信用しないことをしっかり伝えると良いかもしれません。

★「面白い生徒がいるものだ」と考えれば、怒る気にもならないと思います。「残念でした。そんな決まりはありません」と答えれば良いでしょう。相手は生徒ですから、ムキになる必要はありません。この生徒のコミュニケーションの取り方の一つと考えれば良いのです。逆に「試験期間中は時間があるので、掃除をしっかりやりましょう」と伝えれば、生徒はぎゃふんと言うのではないのでしょうか。楽しいやり取りですね。



【事例 8】

★こういう事態、非常によく発生しますよね。まずは掃除をサボる生徒を放課後に呼んで、面談をするのが良いと思います。そこで、頭ごなしに怒るのではなく、「掃除当番の必要性」「周囲からの信頼を失ってほしくないこと」などを伝えたいうえで、掃除をサボって帰ってきた本当の目的を聞いてあげましょう。そのうえで、「次回からどうする？」と問いかけてみてください。自分で決めさせることができれば、うまくいくはずです。

★生徒との今後の関係を考えると、生徒が帰ったことに関しては、何らかの理由があると考えた接し方を考えた方が良いでしょう。一方で、作業を休んだ分は、後日に必ずさせるような取り組みが必要です。部活動を理由に嘘をついて掃除当番を休んだことは、その顧問にも迷惑をかけています。早い段階で、本人に行動の問題点を自覚させ、休んだ分をどこで穴埋めするのか確認することが大事です。また、当番日について、部活動の顧問には、事前に部活動の参加が掃除で遅れることを連絡させるべきです。できれば、クラスルールで皆が納得するようなペナルティーを用意するのも方法の一つです。ただ、どうしても掃除当番を休む場合には、他の当番日の方と代わるか、急な場合は、翌日、必ず掃除当番に入るなど、バランスを取れば、ホームルームの生徒たちは納得するのではないのでしょうか。

★高校1年生は、まだ中学生気分が抜けずにいることが多いようです。そこで、高校生としての自覚を持ってもらうためにも生徒に向き合って、しっかりと話し合う必要があります。例えば「部活に対する責任は果たすのに、HR 内での責任を果たさないのですか？生徒一人一人が自分の責任を果たすことを学ぶのが学校です。あなたも自分の責任と権利についてしっかり考えてください。」と伝えます。

★この先生はどうするかなと試してくる時期ですね。ルールや決め事は全員が十分に理解しているわけではありません。みんなが守るから仕方なく自分も守る程度の認識の生徒も多いのです。大多数が守っている今だからこそ活動として成立しています。ランチェスター戦略では7割を切ると集団として役割を果たさなくなるそうです。毅然とした態度で与えられた役割を果たさせます。果たしていないときには果たすまで寄り添いましょう。

【事例 9】

★真面目なことを真面目に言える環境、大切ですがそれを作り上げるのはなかなか難しいです。照れくささもあるのですが、茶化してしまったり、「くせ～」と斜に構えたりしがちです。そうならないためには年度当初から、人が話し始めたらきちんと聞く習慣を身に付けさせましょう。たとえ、声の小さな人でも、はかどらない話し方をする人でも、生徒でも教師でも、誰かが話し始めたら自分に直接関係の無い話でも聞く！これを徹底することです。少しでも私語をする者には毅然と注意しましょう。担任が何を許さないかを理解してもらうことです。話を聞けるようになったら、共通の話題を取り上げ、最初は担任が司会役で自由に意見を述べ合ってみましょう。なぜ、あのアニメはなぜメガヒットとなったのか？など、たわいのない話題で意見を掘り下げていきます。意見を述べ合うことへの知的好奇心を刺激できるはずです。

★本音ばかりが大事だと言うつもりはありませんが、結局「空気を読む」というのは、自分で考えずに他人の顔色をうかがい、その場の流れに乗るだけのことですよね。スマホでも検索し、答えもコピペするような社会で起きやすいことなのかもしれません。担任として今の状況に危機感をもっていることを生徒にも伝え、授業中も含めて自分で考えた言葉を大事にするように指導していきましょう。人が人とつながるときに大切なのは対話からです。

★ふざけた意見を言った生徒と面談をしましょう。その生徒の本音を聞くことによって、対策を講じることができます。生徒の中には進路について不安を感じていたり、将来が見通せないためにふざけた言動を行ったりすることもあると思います。面談を通じて生徒の真意を確かめて、必要な対応をします。一対一で話をすると、意外と生徒は本音で話してくれます。原因が分かれば対策を講じることが可能になります。

★担任が不審に思って、いじめを指摘しても、「いじっているだけ」ということをよく言う生徒がいます。本人たちは楽しんでいるつもりが、いつの間にかエスカレートして、「いじられている」側の生徒が嫌な思いをしていることがあるのです。このケースもそうですね。「いじめ」かどうかは、誰かが不快だと思うことです。この場合、「ちょっと困っている」のですから、この空気を変える必要がありますね。解決方法としては、担任が時にシリアスな話をして、それで笑ったり笑いを取ろうとしたりしたときに、きつめに指導をすることです。何でも笑いに変えることがいいことなのではないのだ、ということを少しずつ理解させましょう。

【事例 10】

★HRが2時間あれば十分取り返すことができます。意見を言っていない生徒達の中には頑張りたい生徒もいるでしょうから、クラスの代表者と話し合ったうえで挙手制ではなく、アンケートにて意見を集約してみてください。集約した意見をもとにいくつかの企画に絞り、そこで希望の企画ごとに企画書を作らせましょう。ここから先の流れは序章の「文化祭編」を参考にしてみてください。自然と全員が巻き込まれていくはずです。

★学級目標を実現するための、文化祭の目標を考えてみましょう。その文化祭の目標を実現できるHR企画を考えます、これが基本です。学級目標が文化祭とつながらない、という時には文化祭の目標を考えます。次にHR企画を、ブレインストーミングで出します。さらに、自分にできることを意識しつつ、HRの文化祭目標を実現できる企画に絞り込んでいくと、いくつかの案に整理できます。あと2時間でしたら、ここからでしょうか。何に決まっても、互いに協力することを約束して、誰もが、企画決定の経緯を理解できるように、プレゼンテーション大会を催して、決めていきます。プレゼンのために企画案を整理するワークシートがあると良いですね。

★生徒の心情としては、楽をしたい気持ちが強いので、面倒なことを避けたいはずです。文化祭は一般公開するのでしょうか？そうであれば、保護者や一般の方に恥ずかしい内容は見せられない気持ちで頑張る生徒もいると思います。私はブレインストーミングなど行い、やりたい内容を話し合いの中で生徒たちに決めさせるようにしています。担任が決めた内容ですと、生徒はやる気があまり無くなります。ですが、あまりにお粗末な内容が出た場合にのみ、担任から、明らかに生徒が嫌がりそうな企画をわざと決めようとします。すると、大多数が不真面目な生徒たちでも必死に企画案を練りだします。担任に任せると恐ろしいことになると感じるからだと思われます。生徒が決めた企画で動く場合は、生徒たちが自ら作業分担をして頑張りはじめると思います。

★まず、文化祭実行委員と担任とが事前に相談して、打開策を検討しましょう。きっと、生徒の中には一生懸命手伝おうとしている者がいるはずです。彼らを巻き込んで、生徒の多くが満足できる文化祭になるよう工夫しましょう。一部の生徒の一声ですべてが決まるようでは「望ましい集団活動」とは言えません。誰もが自分の意見を言える雰囲気があり、誰もが他人の意見を聞く雰囲気を作ることが重要です。そのためにも、話し合いが必要です。

【事例 11】

★問題はスマートフォンでの、というよりは、単純にコミュニケーションの取り方なのではないでしょうか。そこをまとめて指摘してしまうと、この生徒にとっては少し難しいかもしれません。まずは集団で活動するにあたり、日程調整をはじめ、何らかの「決定」を伴う場合にはきちんと合意形成をするように伝えましょう。今回人が集まらなかったことで、きっとその生徒は不安を感じているはずです。穏やかにサポートしてあげましょう。

★スマホだけのコミュニケーションで済ませようとするのは、言葉を選び、相手の様子をうかがいながら人と直接向き合う必要が無いからでしょう。お考えの通り、全てをSNSのやりとりで片付けることはできないのですから、SNSに頼りすぎると直接対峙することのハードルが上がってしまうと伝えてあげたいですね。それでも、逃げたがるのなら話を聞いてみましょう。その上で、文化祭におけるSNSでの連絡の問題点は2点です。1つは、教師が生徒の動向を掴めないこと。これは、教師にも見えるやりとりにさせることが可能でしたら、解決です。根深いのは、もう1つ、計画を立てることがその場しのぎになってしまうことです。「一応」計画を立てて、SNSの「ごめん」で断る。これを繰り返すことになりかねません。先生は、文化祭で生徒にどんな力を身に付けて欲しいとお思いですか？人と協力し合える力、協働作業を通じての達成感、計画を立てる力…文化祭を通じてどんな力を身に付けて欲しいのか、それらが必ずや生徒の将来の糧になると考えている、その思いを伝えましょう。

★SNSがダメなのではなく、顔の見えないコミュニケーションは難しいものだということを理解させたいですね。実際、皆で集まって何かを相談すること自体を面倒くさがる生徒も多くなってきていると感じています。でも、文字ではなく人の言葉から受け取るメッセージの方が優しいことを感じたり、言葉の選び方からその人らしさを感じたりする経験が増えれば、少しずつ変わっていくはずです。結局、他人への気遣いができるかどうかですね。

★SNSは使い方によっては便利なツールよね。便利だからこそ大人の世界でも軽い気持ちや考えなしに使ってしまう場面もちらほら。今回の女子生徒には、まず担任に場所と内容を事前に報告することを約束させます。次に「日時はどう決めたのか」、「班員の都合は？誰が来るのか」、「集まったからには何をどれぐらいやるのか」など連絡すべき具体的な内容を準備する大切さを伝えましょう。班の活動が順調になることで自覚できるのでは？

【事例 12】

★愚痴を訴えてきている生徒も、リーダーをしている生徒も、「よい文化祭にしたい」という思いは一緒だと感じます。決して悪い状況ではないのでしょう。1つ1つの作業がぎりぎりリーダーの生徒も困っているところだと思いますので、一度、進捗状況を共有する時間を作ってみてはいかがでしょうか。そこで、「臨機応変に協力し合うこと」をリーダーに提案させられると、個々の生徒が動きやすくなり、スムーズになると思います。

★文化祭でリーダーをしたい生徒は、おそらく何か考えている計画などあると思われます。時間をとって、建設的な意見交換を行い、不満を解消する必要があると思います。その中で、リーダーが全体を監督するのであれば、リーダーになれなかった生徒をサブリーダーとして作業分担をし、リーダー的な役割を与えるとよいかもしれません。文化祭では、生徒同士で多少は不満がでます。しかし、様々な意見やアイデアで良い内容になっていきます。不満を解消し、効率よく行えるアイデアを取り入れる話し合いは、その日の作業が終わる前の5分ほどあれば、十分です。話を聞き、取り入れる部分を取り入れることで、愚痴をいう生徒は減り、良い方向に向かいだすと思います。ただし、個人攻撃する発言は厳禁など、ルールを決めて話し合うことが大事です。

★まだ経験の浅いリーダーにはよくあることですね。自分自身が一生懸命作業に没頭してしまい全体の進捗が見えていない。また、最終形のイメージがリーダーの頭の中にしかないときなどによく起こります。リーダーは作業よりも工程管理を意識してもらい、完成までにどのくらい(量・時間)何を誰がするのかを書き出す。それを参考に愚痴を言う生徒たちにどうすればうまくいくのか考えさせ、実働部隊の仕切りに協力してもらうのは？

★文化祭のリーダーをやりたいのにできなかったから、この状況が嫌なのでしょうね。だからといってこの生徒は、自分にできることをしているわけではないので、そこからアドバイスをしてはどうでしょうか。意見があるのなら、まずは自分ができるところをやってみる、リーダーに言ってみる、ということです。指示を待っているだけでなく、リーダー以外が意見を出してもいいのです。建設的な意見交換の場合は、“全体の場で”言わせることです。もちろん、担任は同席してくださいね。発言内容や言い方が行き過ぎるときは、適宜中断させながら、面と向かって案を言って、提案をさせながらより良い方法を生徒に考えさせるとよいでしょう。

【事例 13】

★文化祭の準備に参加しないでいるだけの生徒、気になりますよね。「周りの生徒は不満に思いながらも、注意できず」とありますから、回りの生徒にインタビューしたとは思いますが、何が不満なのでしょう？そこにいてお菓子食べてること？手伝わないこと？何を手伝ってほしいか伝えたかな？そもそもその生徒に手伝える作業はあるのかな？人には得意、不得意がありますから。なぜ、その生徒は、そんな針のむしろのような状態でもそこにいるのでしょうか？最初から、一致団結して事に当たるなどというのは、現実にはありえません。その生徒は、食べているお菓子を片付けますか？作業している人に配ったりしていませんか？その生徒にできる仕事が見つかるとうれしいですね。

★このまま何もしないで放置すれば、この生徒はホームルームの中で浮いてしまいます。もしかすると、その生徒には、何か言いたい意見があるかもしれません。それで、行動で気持ちをアピールしているのかもしれません。準備時間に教室にいる状態であることを考えると、内心ではどこかで協力しないといけないが、プライドが許さない状況かもしれません。他の生徒がいないときに、1対1で話をすると、その理由が聞けるかもしれません。また、他の生徒たちがその生徒にどのようにすれば良くなるのか意見を聞くと、第三者の目を見た辛口のアドバイスをくれそうな気がします。もし上手くいかない場合は、担任が、その生徒の適性を見極めて、できる範囲での仕事をさせるのがよいと思います。その生徒を見捨てず、どこかで必ず関わりを持たせる指導が、今後につながると思います。もし、その生徒が重い悩みを抱えていることが分かれば、カウンセラーや他の先生方とも連携して指導しましょう。

★文化祭を通じて何を学ぶのか考えさせます。「何もない」と答えるかもしれません。その時には「あなたは大切な経験をしないで、無意味な高校生活を過ごしています。そのことに気づかないのですか」と問い詰めます。反発すると思います。さらに「周囲の生徒たちの気持ちがわかりますか」と追い詰めます。本音をぶつけることも重要です。担任は冷静に生徒と対峙します。きっと賛同する生徒が出てくると思います。戦うことも必要です。

★学校行事に全員が積極的ではありません。運動が苦手、歌を歌うことに抵抗がある、人前が出るのが苦手、部活の方が気になるなど何らかを理由にして消極的な生徒は存在します。全員が参加しているという結果をとるならば、話し合うとか考えるなどの活動ではなく、「〇〇する」のように最終形が明確なものをさせる。学級が育ってくると彼女を巻き込もうとする生徒が育つのでそのうち溶け込むとベテランの先生もおっしゃったのでは？

【事例 14】

★私も生徒とともに製作に加わる人が多いです。担任としては文化祭を成功で終わらせたいと思うのですが、一方で、失敗も経験だと思っています。誰かが手を抜けば、誰かに負担が行くのは当然のことですから、やらされていると感じる生徒が多い企画であれば、未完成や中途半端なものでもしょうがないと思います。何らかの形で、完成をさせたいければ、怒っている生徒に対しては、「何ができるのか？」確認し、可能な範囲で協力してもらえないです。しかし、その生徒が大変だということには何らかの理由があるように思います。例えば、「他のホームルームの生徒は楽な企画で早く帰れるのに、なんでこのホームルームだけ大変なのか？」などがあると思います。担任としては、「最後の文化祭の思い出は楽しめてはつけないから、成功で終わらせたいので、本来、生徒が作る部分を担任も手伝っている。」と、本音で話をした方が良くように思います。リーダーの生徒は担任に感謝をしていると思います。担任としては、『適切な距離』というよりは、担任としての意思と姿勢を伝えることが、まずは大事ではないでしょうか。また、怒る生徒の不満を聞き、適切な指導を行うことは、生徒との適切な距離を持つ意味においては重要ではないでしょうか。

★先生が主体の文化祭でないことを自覚してください。もっと生徒と話し合っ、どのように進めたら良いか、生徒も先生も納得した上で準備します。その際には、生徒の意見をきちんと聞きましょう。そして、担任としてできる手助けは何か明確にします。担任がやり過ぎてはいけません。今、こじれた状態ですから、改めて話し合いを持って、意見交換をしながら、生徒が納得できる形で進めるようにします。

★先生もついのもりこんでしまって、気づいたら生徒よりも活動に没頭していることがあるのじゃないかな。高校最後の文化祭だし、この生徒たちとできる文化祭も最後だと思うと気合を入れたくなる先生の気持ちもわかります。でも、この文化祭って生徒が主体ですよ。こういうときは、「誰のための」をいつも念頭に置いておくことです。生徒が作るもの、生徒が考えるもの、生徒が答えを出すもの、なのです。担任が生徒に近づくタイミングの目安は、「担任の先生、どうしたらいいでしょうか」と生徒が聞いてきたとき、相談してきたときです。それまではじっと見守るのです。

【事例 15】

★体育祭の学校の目標はなんですか？伝統ある行事のようですが、引き継がれている目標は何なのでしょう？優勝することでも、全員リレーで1位になることでは無いはずです。そこに立ち戻って目標を実現できてこそ、伝統行事と言えましょう。その上で、優勝できたらラッキーですね。それでは、優勝できなかったら…体育祭の価値はなくなってしまうのでしょうか？朝練にしても、事前に参加者の確認は必要ですし、当日も列車等の遅延で予定の人数が揃わないかもしれません。何の練習がしたくて朝練をするのでしょうか？朝練のねらいは共有できていますか？そのねらいの実現のためには、全員の朝練参加が必要ですか？

★現時点では実行委員長はワンマンな印象が強く、他の生徒たちから支持されない状況にあります。前もって、クラス全員リレーの朝練習日が分かっているならば、部活動の朝練習については、所属する生徒が、部活動顧問に連絡することはできると思います。しかし、遠方から通学する生徒は始発電車では間に合わないことや日頃から運動不足の生徒、体調不良の生徒などいると思いますので、実行委員長のやる気は十分にわかりますが、残念ながら、話し合い活動を行わずに計画した結果、4分の1の参加になったことは理解すべきことだと思います。担任としては、まずは話し合い活動を通して練習可能な時間を皆で計画をして、多くの生徒が参加しやすい曜日や時間を決めるアドバイスを実行委員長にすべきです。また、運動不足の生徒に合う練習や無理のないメニューを別に準備すると、多くの生徒に配慮した分、生徒たちから信頼される実行委員長になり、その後の雰囲気も良くなると思います。

★担任は、まず、文化祭実行委員の生徒と話し合います。ほかの生徒の気持ちやクラスの雰囲気についても状況を把握させます。朝練を提案したとき、何人が参加できるか調べておくべきでした。もし、参加者が少ない場合は、放課後や昼休み、あるいはホームルームの時間などを活用することも考えさせます。いろいろな考えがあることも理解させたいうえで、皆が協力できる、実現可能な計画を立てるよう助言します。

★自分が一生懸命やっているから、みんなも一生懸命してくれるはずだ。とつい期待してしまうのは教師も同じですね。感情的にぶつかり、クラスの雰囲気が悪くなってしまったと不安なのは本人だと思います。なぜ人数が集まらず十分にできなかったのかを書かせることは有効です。その上でどうすればよかったのかを本人だけで考えた後、副委員などと協議させてみては。ここが実行委員としての成長のチャンスであり三年生につながります。



【事例 16】

★生徒の希望を尊重する必要はありますが、クラス活性化のためには担任の果たすべき役割もあるでしょう。例えば「今の委員・係をすべて新体制に」としてしまう手もあります。これならオールメンバーチェンジ！ですから、真意は悟られません。役割の固定化を避けるには、有効な方法です。これまでの経験から、役割を変えてみると、またそこで活躍できる生徒が出てきます。生徒の成長に期待して、いろいろな経験をさせてみましょう。

★ホームルームの生徒に、学校では様々な役を経験してほしいという話を担任から先にして、昨年经验した方以外で、立候補者を優先して募るようにすれば、ホームルーム委員になりたい生徒が手を挙げやすい状況になるのではないのでしょうか。もし、決定すれば、アドバイスをホームルーム委員経験者から頂ける場を設定すれば、受けた本人もやりやすくなると思います。また、他の係も同様に経験者以外が行う必要がでます。どの係についても、相談を経験のある他の生徒とすることにはなりますので、ホームルームの生徒同士で、意見交換が行われ、活発なホームルーム運営ができるようになる可能性はあります。まずは、担任の考え方を生徒に伝えるべきだと思います。

★とてもカリスマ性のあるリーダーなのでしょう。学級集団がホームルーム委員に推薦する状況では、無理に介入しない方がよいでしょう。その女子生徒はなぜHR委員をしたいのでしょうか？強い意志を持っているのであればそれとなくではなく立候補させるよう向き合います。HR委員だけがリーダーではないです。各行事の指示や避難訓練の整列や人数確認などリーダーに必要な資質を養う場面を担当が意図的に割り振ってもよいですね。

★役割が固定してしまうこと＝人間関係が固定してしまうこと、とも考えられますね。ホームルーム委員をやりたい生徒が多いことは良いことですが、今の委員が他薦で決まってしまうことは、他のやる気のある生徒には、窮屈に感じるかもしれません。このような時は、紙に書かせるなどして立候補を募ることです。また、他の立候補する生徒にも応援者をつけることが必要です。本人一人が希望をしても、その本人が立候補できない雰囲気があるのなら、周りから応援してもらえるように、担任から働きかけてみてはどうでしょうか。

【事例 17】

★情報共有ができないのは困りましたね。委員会後、HRに伝えなければならないことを一緒に確認し、もう一人の委員が黒板に書いておくのはいかがでしょう。HR委員はどのようにして選びましたか？本人はどうしてHR委員になったのでしょうか？自分を変えたい、と思っているのかもしれませんが。また、連絡や進行にその生徒が戸惑っている時に、もう一人の委員は何をしていますか？その生徒は「プライドが高い」と考えておいでようですが、全体に話をする時にはしっかり台本を作って、担任ともう一人の委員とで事前にリハーサルをして臨ませてはいかがですか。最初は面倒でも、すぐに慣れてできるようになります。それでも途中で行き詰まったら、ペアの委員や、気立てのよい生徒に応援をあらかじめお願いするのです。

★「情報不足」になった時、どのように対処していますか？この生徒自身が困った事態になっていなければ、担任が指導を繰り返しても変化は起こらないでしょう。担任が描く理想的な進め方と、この生徒の考えている進め方に乖離があるように感じます。指導の前に、その点をすり合わせて、「任せるよ」と信頼を示してみتهはいかがでしょう？こうすればうまくいくのに、と教師は何でも教えたいのですが、教えたら我慢して見守る期間をもちましよう。

★ホームルームで生徒が話をするとき、話す生徒が全体に静かにするように注意をして話を始めることは大事ですが、うまくいかない場合に、担任が生徒を静かにさせるサポートがいると思います。教室がうるさくなる原因をホームルーム委員のせいにしてはホームルーム委員の不満は募るだけです。担任がホームルームでの話し合いにあまり介入しないためには、日頃から生徒に「聞く姿勢」について指導し、その環境を整えておく前準備が必要です。また、みんなが話を聞く姿勢で臨めば、ホームルーム委員自身が必要とされる委員として自覚し、やる気を持ち、よりよいリーダーシップを発揮しだすと思います。

★他のクラスと差ができてしまうと、自分のクラスだけ後れを取ってしまうのではないかと心配ですよね。このようなときは、担任は職員室で他のクラスの先生から正しい情報を得ておきましょう。その上で、担任はこのホームルーム委員の男子がリーダーとして正しい情報を発信できているのか、クラス全体に正しく指示ができているのか、を確認します。誤っているときは、「そうじゃなかったと思うけど、もう一度確認してくれるかな？」という具合に、あくまでもこの生徒が動く状況を作ります。正しいときは、ただ黙って、この生徒を認めればいいのです。最初は「待ちの指導」をすることがもどかしく感じますが、徐々に生徒が変わってくれることを期待しましょう。

【事例 18】

★おっしゃる通り、この生徒達の個人的な事情で、クラス全体で決めた部屋割りを変更するのは現実的ではないです。この生徒は冷静さを欠いている状態だと思うので、落ち着いた状態でもう一度話を聞きましょう。相手の生徒にも話を聞く必要があります。冷静に考えさせながら、双方の和解する意思を引き出せば解決できるでしょう。ただし、修学旅行ではお金の問題もありますので、保護者に早めに状況を伝えておきましょう

★どのような状況で気まづくなったのかは、個別に生徒を呼んで話を聞いてみた方がよいと思います。意外と単純な理由でそのような状況になっている可能性が高いです。場合によっては、カウンセラーや他の先生との連携が必要になると思います。互いに嫌な部分があると思いますので、それを知ることが、解決する糸口を見つけるのに大事な作業だと思います。もし、何か互いの誤解であれば、解決し易いと思います。また、互いに悪いことをしている気持ちがあるのであれば、お詫びの手紙交換を行うなどの方法があります。間に担任が入って仲裁するのは、結構な神経を使います。できれば、状況を把握している生徒に、情報を聞き、協力してもらうとよいかもしれません。

★3名から個別に事情を聴きます。解決の糸口が見つかれば、他の引率する教員にも協力してもらい、解決のために努力します。できるだけ生徒の希望を聞いて、かなえてあげたいのですが、直前になって、部屋割りを変えることは難しいですね。修学旅行では、宿泊する部屋は変えられませんが、行動する班を変えることは可能ですので、そう提案してみてもいいかがでしょうか。それでも修学旅行を欠席するなら、仕方がないと思います。

★せっかくここまで来たのに！と思う担任の気持ちもわかります。ただ「生徒のわがままに付き合う」という思いは相手に伝わる恐れがあるので控えましょう。まずは、気まづくなった理由が何で、その嫌な思いを取り除けないか考えてみましょう。まずは当事者同士で。次に同室の三人。それでもうまくいかないときに女子全員で考えればよいのではないのでしょうか？安易に担任に言ったら替えてくれるわけではないことも伝わるでしょう。

【事例 19】

★まずはソプラノパートのリーダーの生徒に冷静になってもらう必要がありますね。達成したいことは何なのか、そのための手段として今やっていることは正しいのか、考えさせましょう。知識の差を考えると、多くの生徒はある程度のレベルに到達した時点で自分達の合唱に満足しており、改善点を理解できていないのではないのでしょうか。それを理解してもらうためにもうひと工夫できれば、きつとうまくいくと思います。

★音楽祭での発表は一人で行うわけではないので、チームワークが重要であることを生徒に理解させることが担任の重要な役目であるように思います。ソプラノパートのリーダーが、熱が入って、自分本位に物事を考えている状態に気付いていない状況ですので、チームワークが重要な音楽祭で、周りのモチベーションを下げるのが、最優秀どころか、最下位になる可能性が高いことをソプラノパートのリーダーにしっかりと伝えるべきです。また、一方で、アルトパートの声が出ない原因を担当の生徒たちに聞き、改善することが大事になります。最優秀賞を本当に取りたい気があるのか全生徒に再確認し、そうであれば、悪口を言うのではなく建設的な意見を出し合い、互いにモチベーションを高め、やる気が出る関係の構築をするように指導した方がよいです。

★皆が協力してはじめて歌声が一つにまとまるのですから、この状況では音楽祭どころではありません。担任の、協力して欲しいという思いを伝えて、生徒の意見を聞きます。意見はできれば生徒全員から聞きたいと思います。生徒たちに冷静に考えさせます。今の状況はとても高校生とは思えない、わがままで自分勝手な考えであることを理解させます。高校3年生の考え方、行動の仕方としては、まったく幼稚であることに気づかせます。

★これはグループ同士の対立ではありません。生活指導上のいじめに該当すると思います。ここまで状況が把握されているのであれば、その時点で学年及び生活指導と情報を共有し管理職を通して至急対応をします。生徒の不登校や生命を脅かすことにつながりかねない案件です。やる気、熱心さの暴走ととらえることもできないわけではありませんが、生徒の安全が何より大切。合唱は声を合わせること。「どうすれば」を考えさせるべきです。

【事例 20】

★放課後の教室の使い方について、HR内でルールを決めて掲示するのはどうでしょう。静かに自習したい生徒が多ければ生徒発信で話し合い、そうでなければ、担任から発案してみましよう。他のクラスでも同様のことが起こっているのであれば、学年全体で1組～○組は放課後は自習スペースにする、などのルールを定めてもよいでしょう。ルールが定められていれば、勉強したい生徒もきちんと意見を主張しやすくなるはずです。

★主張しやすい環境を整える意味で、まずは、担任からホームルーム全体に、「放課後の教室は、自習をする生徒が使うので、静かにしましょう。」など伝え、教室には『放課後の教室は静かに』といった張り紙をしましょう。担任の姿勢として、受験シーズンを迎えて生徒の意識を高めたい意思を伝えることになると思います。他のホームルーム担任とも同様に打ち合わせて、学年で統一した放課後の教室環境を整備することにより、他のホームルームの生徒も気を遣うようになります。その生徒は、環境が整備されれば、相手に注意をしやすくなるのではないのでしょうか。別に言わなくても、無言で張り紙を指さすなど主張の方法が増えるし、その意思に気付く生徒が増えるからです。

★この高校では、放課後自習ができる場所は決まっていますか。決まっているなら、そこで自習するように伝えます。特に決まりが無く、教室で勉強している生徒もいるようなら、早急に放課後の教室の使い方についてルール作りをする必要があります。担任と生徒だけで決めることはできません。学校として、学年としてのルール作りが必要です。どの生徒も納得できルール作りをして下さい。

★他のクラスの生徒もいる状況で、この生徒が「静かにして」とは言えないでしょう。これは、担任の先生だけの出番ではなく、学年団の出番でしょう。生徒たちが進路に向けた意識が高まってきている中において、この生徒のように教室で自習したいことが叶えられていないことを憂慮すべきです。担任であるあなたは、生徒からこのような訴えがあることを他のクラスの教員にも伝え、各クラスで指導をしてもらいましょう。その上で、この生徒に「自分の主張を伝えてごらん」とアドバイスしてみてもはどうでしょうか。